



リステラス星圏史略
古資料ファイル
1 - 5



《苦夏》
～ サタナクラ ～

(発掘整理一旦完了)

霧樹里守 is 土岐真扉

『 苦 夏 』
～サタナクラ～

苦 夏

- サタナクラ 人口10万前後の盆地。
嗜好品ブナンジュのプランテーションで、
どれいの街。
- カムヤ 自由農民から歌を詠んで詩人になり、
シュギシャとなる。統（トウ）の者。
- オドウン 密告者。偽ってカムヤに近づく。
- カンナキアス 伝説の家統（カトゥ）の創始者。

(1 びょうびょうと風が吹きすさぶ)

(1 びょうびょうと風が吹きすさぶ)

2016年6月29日 リステラス星圏史略 (創作)



1.

びょうびょうと風が吹き荒ぶ。

サタナクラは奴隷文化の地である。

朝、遠い地平の日の出とともに銅鑼や鐘の音（ね）が響き渡り、使役される人々の群は幾百幾千もの列を作って移動を始める。

——はいよおー。

——ほいいい…。

長く尾をひく独特のかけ声が順々に園地に出て行ったあと、陽の当たらぬ北斜面の掘っ立て小屋に残されるものといえば、鶏に荒地山羊。三歳以下の幼児とその面倒を見るわずかばかりの老婆たち。

斜めに光のさしそめた浅く広大な盆地はすぐに熱気の鍋となる。

天然の川はない。

赤く灼けた世界を渡る風が月日にさらされた帆をまわし、ゆっくり、ゆっくりと、木組みの動

輪がわずかばかりの濁水を汲みあげる。

水運びは子供の仕事だ。

女は固い黒紫の果実をもいで、ずっしりと身の丈ほどの籠を積み上げてどこまでも引いて行く

。

その、後から、枝を払い、根を掘りおこし、男たちが来年のための苗木を植えて続く。

——仕事は辛くはない。

生まれてから死ぬまで。

けっして辛くはない。

ひよおお...

今日も、ブナン樹の固い葉だけが揺れる盆地を砂と風が日差しと熱砂が吹きぬけてゆく。

赤い、風吹くサタナクラ。

人々はそう呼んだ。

2.

「ヴァル！（くそっ！）」

あまり上品とは言えない悪罵をつぶやいてカナヤは汗をぬぐった。

塩気が、とうにすりむけた手のまめにしみて顔をしかめる。

もとをただせば農奴などではない。

「歌女、昼餉だよ」

~~タミヤ~~

カナヤ

タニヤ

カムヤ

カナヤ

タンヤ

[『 苦 夏 - サタナクラ - 』 \(by 柊実真紅@日付不詳\) 1.](#)

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント \(1\)](#)

1.

ひょおっと風が吹きさ泣く。

サタナクラは奴隷文化の中心をなす土地である。

朝、遠い地平の日の出とともに銅鑼や鐘の音（ね）が響きわたり、使役される人々の群れは幾百幾千もの列を作って移動をはじめ。

.....はいよおー。

.....ほいい.....

長く尾をひく独特のかけ声が順送りに園地へ去って行ったあと、北斜面の掘っ立て小屋に残されるものといえば、にわとりに荒地山羊か。

光さしそめた広大な盆地はすぐに熱気の鍋となる。

川はない。

赤く灼けた世界をわたる風が月日にさらされた帆をまわし、ゆっくり、ゆっくりと、木組みの動輪がわずかばかりの濁水を汲みあげる。

水運びは子供の仕事だ。

女は固い黒紫の果実をもいで、ずっしりと、身の丈ほどの籠に積みあげてどこまでも引いてゆく。その、後から、枝をはらい、根を掘りおこして、男たちが来年のための苗木を植えて続く

。

.....仕事は辛くはない。

生まれてから死ぬまで。

ひとは園地で年をとる。

.....けっして辛くはない。

ひょおお.....

今日も、ブナン樹の固い葉だけが揺れるすりばち状の広原を、熱砂と日差しが吹きぬけてゆく

。

赤い風心くサタナクラ。

.....そう、ひとは彼の地を呼んだ。

『 苦 夏 - サタナクラ - 』 (by 柊実真紅@日付不詳) 2.

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント \(1\)](#)

2.

「くそっ(ヴァル)！」

あまり上品とは言えない悪罵をつぶやいてカナヤは汗をぬぐった。

塩気が、とうにすりむけた手のまめにしみて顔をしかめる。

もとをただせば農奴などではない。

「歌女、昼餉だよ」

(※シャーペンと色鉛筆描きのイラストがあるのですが、
みなさんにお見せできないのが.....以下同文.....☆)

カナヤ
タニヤ
タミヤ
カムヤ

オドウン
オ・ドウン
オウドン
オードン
ドウオン
オドウン

☆サタナクラ。奴隷文化の土地。

☆そこに売られてきたタニヤはすこし獣じみた野生の眼をもつ、赤い肌、赤い髪の子供(ウタヒメ)である。

~~季節農奴はブナンジュの摘み取りと植え替えに忙しい。.....読めねな★(※~~

+

☆各地の奴隷農場では《主義者》の取り締まりが厳しくなっていた。

☆奴隷達の人気を集めるタニヤに、南方の白人の医師、ドウオニは自ら主義者であると名乗って

近付くが、

☆夏至の太陰の奴隷祭の夜、密告者であることが知れて皆になぶり殺しにされた。

☆そして季節の終わり。タニヤは迎えの主義者達と共にサタナクラを去った。

破滅（ヴァルス）の名を持つ男。

『水の大陸』 ～苦夏...サタ・ナクラ...～ (2006年4月22日)

[『水の大陸』 ～苦夏...サタ・ナクラ...～](#)

2006年4月22日 [連載](#)

手違いで捕らえられ、綿花奴隷の一人として帝国南部の灼熱地帯《苦夏》(サタ・ナクラ)に送られ使役された女性の物語。水陸帝国のオトコどもって、バカばっかしねー!! という話.....?

(かなり違う.....)。 <(_)>""

リステラス星圏史略
古資料ファイル
1 - 5
《苦夏》
～サタナクラ～

<http://p.booklog.jp/book/108068>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108068>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108068>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ